

# 2020年3月期 連結業績概要

専務執行役員  
山西 哲司

山西でございます。本日はご多忙のところ、当社2020年3月期通期決算説明会に多数お集まりいただき、誠にありがとうございます。それでは私から連結業績概要についてご説明します。

## 2020年3月期 通期決算のポイント

米中関係の悪化により中国はじめ世界経済の減速が鮮明に。  
第4四半期には新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、  
各国の経済活動が停滞し、電子機器の生産、電子部品の需要に影響。

- 売上高は前期比1.4%減、営業利益は前期比9.2%減

- マクロ需要が厳しくなる中、二次電池が堅調に推移しエネルギー応用製品が増収増益を確保。
- 自動車市場及び産業機器市場の需要が低迷する一方、ICT市場向け売上が前期比で増加。  
5G向け需要増加を背景に、二次電池、高周波部品等はスマートフォン・基地局向けの販売が拡大し全社収益を牽引。
- 自動車市場及び産業機器市場における需要低迷の長期化によりマグネット、アルミコンデンサの減損を計上。

まず決算のポイントですが、米中関係の悪化により、昨年末に向かって日を迫うごとにその影響が激化し、中国をはじめ世界経済の減速が鮮明になっていた中、第4四半期には新型コロナウイルス感染症の感染拡大により各国の経済活動が停滞し、電子機器の生産や電子部品の需要に期初想定を上回る大きな影響が及びました。その結果、売上高は前期比▲1.4%の減収、営業利益は前期比▲9.2%の減益となりました。

年間を通して世界的に厳しい需要環境においても、二次電池は期初からICT市場の需要を確実に取り込み、またアプリケーションの拡大によって販売拡大を続けた結果、エネルギー応用製品セグメントは増収増益を確保し、売上・営業利益とも過去最高を更新しました。

米中貿易摩擦に大きく影響を受けた自動車市場・産業機器市場では需要が低迷し、期初から想定を大きく下回る水準で推移した結果、受動部品セグメントにおける多くの製品の売上や、センサ応用製品セグメントの中でも特にコンベンショナルなセンサ製品の売上に大きく影響が出ました。一方で、ICT市場の需要は堅調に推移し、ICT市場向けの売上は前期比で増加しました。5G向け需要増加を背景に、二次電池や高周波部品等はスマートフォンおよび基地局向けの販売が拡大し、増収増益を確保し全社収益を牽引しました。

第4四半期には、自動車市場・産業機器市場における需要低迷が長期化しており、短期的には収益の大幅回復が困難な状況と判断し、マグネットおよびアルミ電解コンデンサの製造設備等の減損損失を約165億円計上、さらに開発体制の見直しにより余剰設備約18億円の減損損失を計上しました。

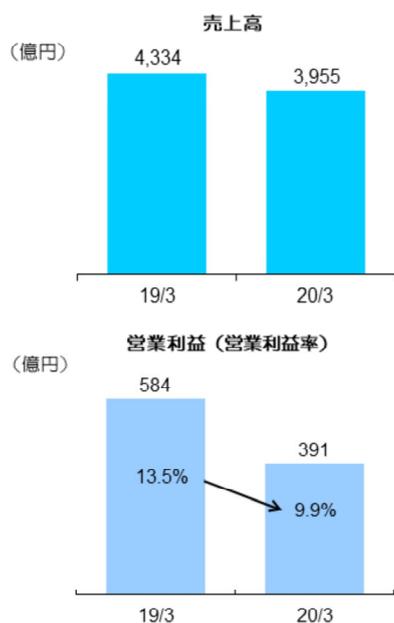
## 2020年3月期 連結業績概要

(億円)	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 通期実績	前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	13,818	13,630	△ 188	-1.4
営業利益	1,078	979	△ 99	-9.2
営業利益率	7.8%	7.2%	-0.6 pt	-
税引前利益	1,156	959	△ 197	-17.0
当期純利益	822	578	△ 244	-29.7
1株当たり利益 (円)	651.02	457.47	-	-
為替	対ドルレート (円)	110.94	108.82	1.9%の円高
	対ユーロレート (円)	128.48	120.92	5.9%の円高
為替変動による 影響金額	売上高：約407億円の減収 営業利益：約31億円の減益			

次に業績概要ですが、対ドル等の円高為替により、売上高で約▲407億円の減収影響、営業利益で約▲31億円の減益影響を受け、売上高は1兆3,630億円、前期比▲188億円と▲1.4%の微減、営業利益は減損損失▲183億円を含み979億円、前期比▲99億円と▲9.2%の減益、税引前利益は959億円、当期純利益は578億円、1株当たり利益は457円47銭となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、第4四半期において工場稼働停止や出荷停止等で売上高が約▲280億円、営業利益が約▲120億円の影響を受けたと試算しています。

為替の感応度は、営業利益で円とドルの関係において1円の変動で前回と同様年間約12億円、円とユーロの関係において約2億円と試算しています。

## 2020年3月期 各事業の状況（受動部品事業）



売上高 3,955億円（前期比8.7%減）  
営業利益 391億円（前期比33.0%減）

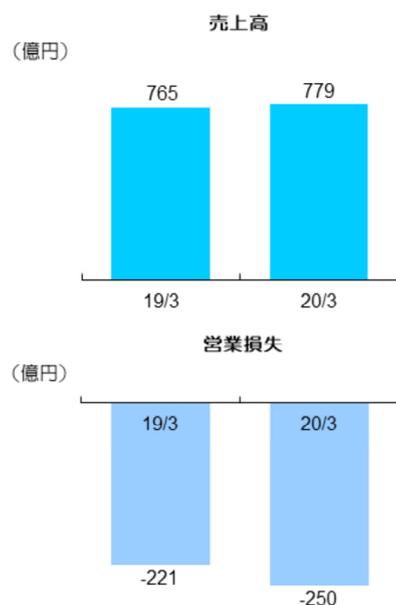
- セラミックコンデンサ
  - ↳ 前期比で減収減益。
  - ↳ 自動車市場及びICT市場向け販売が増加。
  - ↳ 産業機器市場及び代理店向け販売は減少。
- アルミ・フィルムコンデンサ
  - ↳ 前期比で減収減益。
  - ↳ 産業機器市場及び自動車市場向け販売が減少。
  - ↳ 第4四半期に減損を計上。
- インダクティブデバイス
  - ↳ 前期比で減収減益。
  - ↳ 自動車市場、産業機器市場及び代理店向け販売が減少。
- 高周波部品
  - ↳ 前期比で増収増益。
  - ↳ ICT市場（5G関連）向けの販売が増加。
- 圧電材料部品・回路保護部品
  - ↳ 前期比で減収減益。

続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

受動部品セグメントの売上高は3,955億円、前期比▲8.7%の減収、営業利益は391億円、前期比▲33.0%の減益、営業利益率は9.9%となりました。期初より継続した米中貿易摩擦の影響で自動車市場・産業機器市場の需要が低迷、また欧米大手代理店の在庫調整の影響も加わり、自動車市場・産業機器市場向けにおいて売上構成比率の高いコンデンサ、インダクタ、圧電材料部品・回路保護部品、またアルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサの売上が伸び悩み減益となりました。アルミ電解コンデンサは需要低下による生産能力余剰で、第4四半期に減損損失約▲21億円を計上しました。

一方、ICT市場の需要は期初から好調に推移しました。中国を中心とした5Gの立ち上がりも本格化してきており、第4四半期に新型コロナウイルス感染拡大の影響で数量減少となったものの、高周波部品は増収増益を確保しました。

## 2020年3月期 各事業の状況（センサ応用製品事業）



売上高 779億円（前期比1.8%増）  
営業損失 △250億円（前期比一%増）

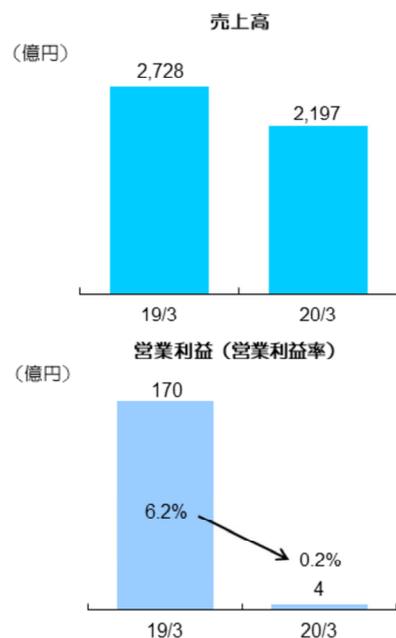
### ● センサ

- コンベンショナル製品（温度・圧力センサ、ホールセンサ）の販売が自動車市場及び産業機器市場向けで減少し、収益も悪化。
- TMRセンサは、自動車市場及びICT市場向け販売が大幅に拡大し増益。
- MEMSセンサは、モーションセンサ及びMEMSマイクロフォンが、顧客基盤、アプリケーション基盤の拡大により販売が拡大。

センサ応用製品セグメントは、成長戦略事業として売上拡大を目指してきましたが、全体の売上は前期比で1.8%の微増にとどまり、赤字が拡大しました。

セグメントの製品は、景気に大きく左右され減収となった製品と、成長戦略に乗って売上を伸ばした製品の2つに大きく分かれます。自動車市場・産業機器市場における世界的な需要低迷の影響により、温度センサやHallセンサといったコンベンショナルなセンサの売上が低調に推移し、前期から売上が大きく減少し収益も悪化、事業全体の損益に大きな影響を及ぼしました。一方、成長を期待している戦略製品であるTMRセンサは自動車向けの採用も進み、数量増加で着実に売上が拡大しました。スマートフォン向けにおいては新モデルへの採用も確実に進捗し、売上が拡大して黒字が定着してきています。またMEMSセンサでは、モーションセンサの新規顧客への売上が着実に増加、MEMSマイクロフォンもスマートフォン向けやIoT向け等に売上を伸ばしましたが、十分な売上拡大、収益貢献には至りませんでした。

## 2020年3月期 各事業の状況（磁気応用製品事業）



売上高 2,197億円（前期比19.5%減）  
営業利益 4億円（前期比97.6%減）

- HDDヘッド・HDDサスペンション
  - ↳ HDD組立数量が前期比で大幅減も、HDDヘッドの収益性は改善。
  - ↳ HDDサスペンションの収益性も改善。
- マグネット
  - ↳ 前期比で減収減益。
  - ↳ 主に自動車市場及び産業機器市場向けの販売が減少。
  - ↳ 第4四半期に減損を計上。

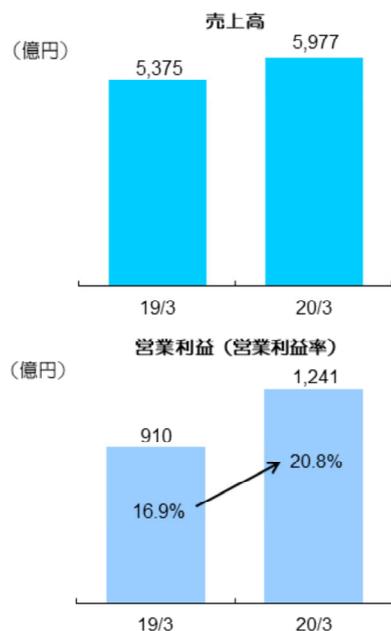
磁気応用製品セグメントの売上高は2,197億円、前期比▲19.5%の減収、営業利益は4億円となり大幅減益となりました。

HDDヘッド・HDDサスペンションにおいては、HDD総需要の減少に伴いHDDヘッドの数量が約▲4%減少、HDD組立の一部製品終息等により、HDDヘッド・サスペンション全体で約▲18%減収し減益となりましたが、高付加価値製品の増加もあり収益性は前期から向上しました。

マグネットにおいてはHDD用マグネットの撤退、産業用ロボットや工作機械向け等の産業機器市場および自動車市場の需要低迷の影響により売上が減少し、収益は厳しい状況が続き、第4四半期に減損損失約▲144億円を計上しました。

## 2020年3月期 各事業の状況（エネルギー応用製品事業）

Attracting Tomorrow



売上高 5,977億円（前期比11.2%増）  
営業利益 1,241億円（前期比36.4%増）

- エナジーデバイス（二次電池）
  - ↳ 前期比で増収増益。
  - ↳ モバイル用途（スマートフォン、タブレット、ノートPC）向けの販売が好調に推移。
  - ↳ ゲーム機向けやミニセル製品の販売が拡大。
- 電源
  - ↳ 設備投資需要の落ち込みにより産業機器用電源は前期比で減収減益。
  - ↳ EV電源は減収増益。

2020年3月期通期決算説明会

© TDK株式会社・2020  
広報グループ・2020/5/15・7

エネルギー応用製品セグメントの売上高は5,977億円、営業利益は1,241億円となり、前期比11.2%の増収、36.4%の大幅増益、営業利益率も20.8%と収益性も大きく向上しました。

二次電池はスマートフォン向けの売上が大幅に増加、またタブレットやノートPC向けも堅調に推移、さらにワイヤレスイヤホン等ウェアラブル向けのミニセルの販売も順調に拡大し、前期比約15%の増収となり収益性も向上しました。

産業機器用電源は景気減速により設備投資需要減少の影響を大きく受け、産業機器市場向けの売上が減少し減益となりました。

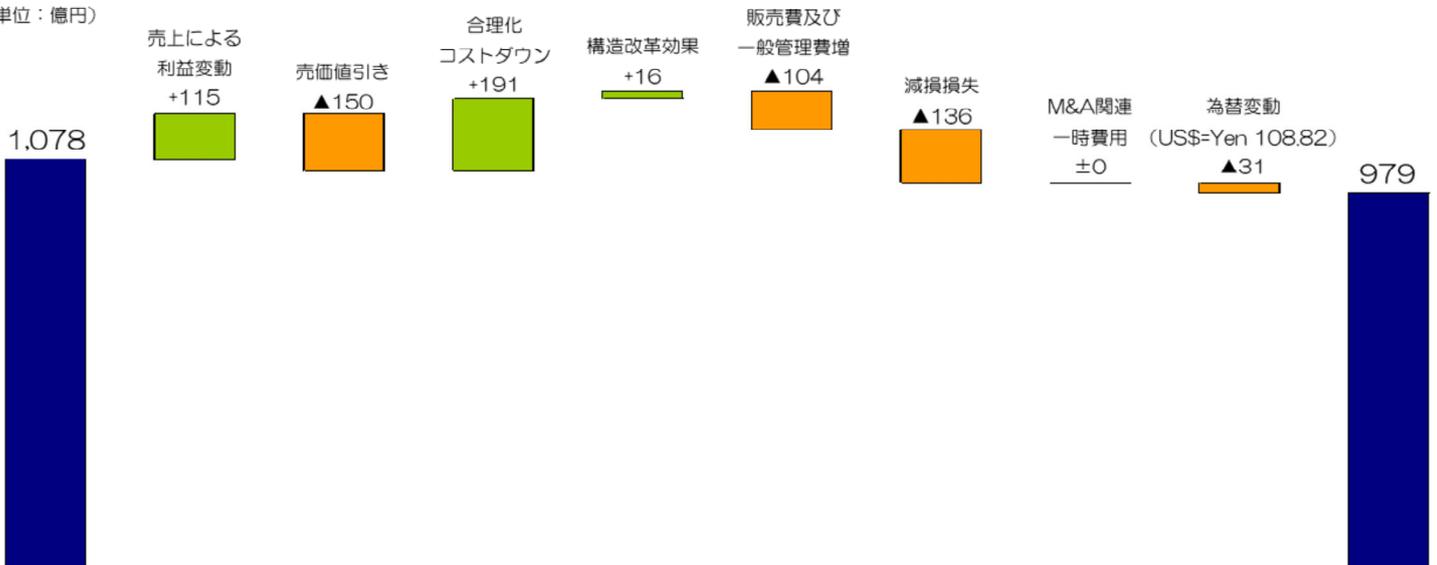
# 営業利益増減分析

2019年3月期  
1,078億円

営業利益 ▲99億円

2020年3月期  
979億円

(単位：億円)



続いて、営業利益▲99億円減益の増減分析です。新型コロナウイルス感染拡大の影響による減益約▲120億円を含みながらも、売上数量増加で約115億円の増益となりました。売価値引き影響約▲150億円を合理化コスト改善効果約191億円によって吸収、また約16億円の構造改革効果とともに、体質強化によって収益向上に貢献しました。InvenSenseの買収関連費用は当期約54億円で前期から増減はありません。二次電池の事業拡大に伴う管理費および開発費が▲104億円増加、為替変動による減益約▲31億円、さらに減損損失の増加約▲136億円により、最終的に▲99億円の減益となりました。

# 2020年3月期 セグメント別四半期実績

(億円)	2019年3月期 第4四半期 (A)	2020年3月期 第3四半期 (B)	2020年3月期 第4四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対前四半期増減 (C) - (B)		
				増減	増減率(%)	増減	増減率(%)	
売上高	コンデンサ	423	373	377	△ 46	△ 10.9	4	1.1
	インダクティブデバイス	343	348	330	△ 13	△ 3.8	△ 18	△ 5.2
	その他受動部品	253	263	263	10	4.0	0	0.0
	受動部品合計	1,019	983	970	△ 49	△ 4.8	△ 13	△ 1.3
	センサ応用製品合計	173	203	187	14	8.1	△ 16	△ 7.9
	磁気応用製品合計	605	579	518	△ 87	△ 14.4	△ 61	△ 10.5
	エネルギー応用製品合計	1,118	1,612	1,183	65	5.8	△ 429	△ 26.6
	その他	176	179	145	△ 31	△ 17.6	△ 34	△ 19.0
	合計	3,091	3,556	3,004	△ 87	△ 2.8	△ 552	△ 15.5
営業利益	受動部品	133	106	67	△ 66	△ 49.6	△ 39	△ 36.8
	センサ応用製品	△ 72	△ 55	△ 70	2	-	△ 15	-
	磁気応用製品	48	52	△ 115	△ 163	-	△ 167	-
	エネルギー応用製品	121	405	147	26	21.5	△ 258	△ 63.7
	その他	△ 28	△ 25	△ 58	△ 30	-	△ 33	-
	小計	203	484	△ 30	△ 233	-	△ 514	-
	全社および消去	△ 74	△ 80	△ 84	△ 10	-	△ 4	-
	合計	129	404	△ 114	△ 243	-	△ 518	-
営業利益率	4.2%	11.4%	-	- pt	-	- pt	-	
為替	対ドルレート(円)	110.23	108.74	109.05				
	対ユーロレート(円)	125.18	120.34	120.32				

続いて、2020年3月期第3四半期から第4四半期のセグメント別売上および営業利益の増減要因についてご説明します。

まず受動部品セグメントの売上は第3四半期から▲1.3%減少しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を除いて約2%の増加と試算しています。全体的にICT市場・産業機器市場向けとも減少したものの、5G基地局向けのセラミックコンデンサ、高周波部品は売上を伸ばしました。営業利益は約▲37%減少しましたが、新型コロナウイルス影響、アルミコンデンサの減損を除けば約9%の増加と試算しています。

センサ応用製品セグメントの売上は第3四半期から▲7.9%減少、営業利益は▲15億円の赤字増加となりました。自動車市場向け売上がクリスマス休暇後の季節的回復で増加したものの、スマートフォン向けの数量減少により全体では減収となりました。営業利益は、新型コロナウイルス感染拡大で生産ライン停止が発生した影響を除くと、減収により約▲14%の減益と試算しています。

磁気応用製品セグメントの売上は、第3四半期からHDDヘッド販売数量が減少したことにより約▲6%減収、またHDD組立販売減少、HDDサスペンション販売数量減少等により全体で▲10.5%の減収となりました。マグネットの売上は約▲5%減少しました。営業利益は、減損損失▲144億円および新型コロナウイルス影響を除くと、販売数量減少により約▲35%の減益と試算しています。

エネルギー応用製品セグメントの売上は第3四半期から▲26.6%の減少でしたが、新型コロナウイルス影響を除くと約▲15%の減少と試算しています。二次電池は季節的な需要減少の影響を受けましたが、産業用電源はほぼ横ばいで推移しました。営業利益は▲63.7%の減少でしたが、新型コロナウイルス影響を除くと約▲49%の減少と試算しています。

## 将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競争条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。  
[https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir\\_events/conference/2020/4q\\_1.htm](https://www.jp.tdk.com/corp/ja/ir/ir_events/conference/2020/4q_1.htm)